

『妙高市史』編さんに関するアンケート調査

# 結果報告書

2023年12月

妙高市教育委員会生涯学習課

(市史編さん準備室)

## 1 調査の目的

平成17年4月に新井市、妙高高原町、妙高村の3市町村が合併して妙高市が誕生しました。令和7年に20周年を迎えるにあたり、旧3市町村のそれぞれの歩みを総括し、妙高市の歴史文化の特徴や妙高市らしさを追求することが市の将来を考えるうえで重要となります。それらのことから、妙高市の将来の方向性を映し出すひとつの鏡として『妙高市史』を編さんします。

新たな『妙高市史』は、子どもからお年寄りまで手に取って読んでみたい、活用してみたいと思っていただけるものを目指し、多くの方々からご意見をいただき、編さんの参考にしたことから、アンケート調査を実施しました。

## 2 調査方法

- ①妙高市ホームページにGoogleフォームを利用したWebアンケートを掲載
- ②『市報みょうこう』10月号に記事を掲載し、アンケート依頼
- ③市内文化財関係団体・観光商工関係団体・各種教育関係委員・市内小中高校の教職員等にアンケート用紙を配布し依頼（用紙での回答、Webでの回答どちらも可）
- ④妙高市公式LINE登録者にアンケート依頼の情報提供

※妙高市ホームページから誰でも回答できることから、市外県外からの回答もあり

## 3 調査期間

令和5年9月20日～11月20日

## 4 回収結果

総回答者数 344 人

## 5 報告書の見方

- ・[n=〇〇] の〇〇の数字は、設問ごとの回答者数を表します。
- ・回答項目ごとの数字は回答数、その後ろのカッコ内は比率（％）を表します。比率は、小数点第2位を四捨五入していることから、合計が100％を上下する場合があります。
- ・回答者が複数回答できる質問でも比率は同様に算出しているため、回答合計が100％を超える場合があります。
- ・グラフ中の回答の語句については、一部簡略化している場合があります。

## 6 調査主体

妙高市教育委員会生涯学習課市史編さん準備室

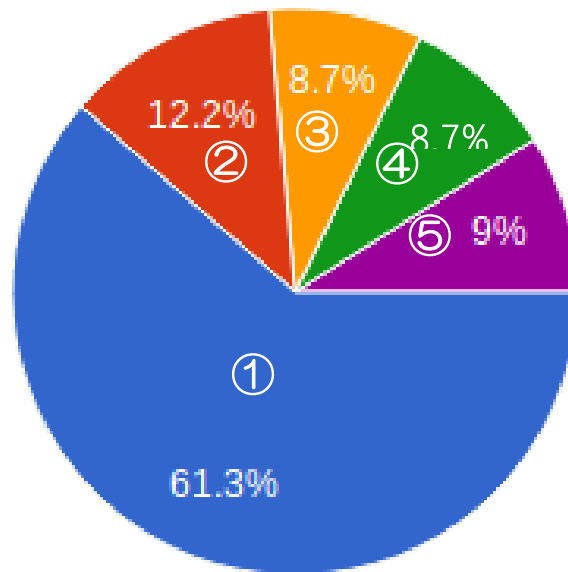
## 「妙高市史」編さんに関するアンケート結果

### 問1 居住地区について

あなたのお住いの地区または勤務地を教えてください。該当する地区名をチェックしてください。

① 新井地区	211(61.3%)
② 妙高高原地区	42(12.2%)
③ 妙高地区	30(8.7%)
④ 市外	30(8.7%)
⑤ 新潟県外	31(9.0%)

[n=344]



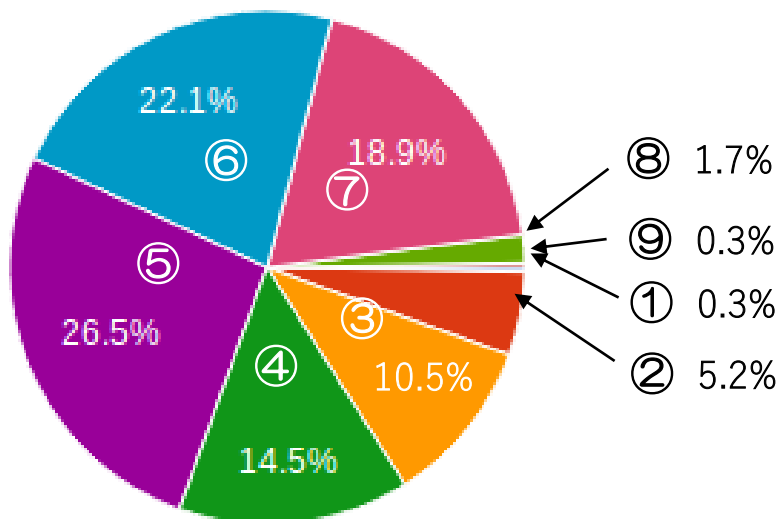
- ・総回答数 344 のうち旧 3 市町村の回答者は 283 で、その内訳は新井地区 211、妙高高原地区 42、妙高地区 30 となっている。その割合は新井地区 74.6%、妙高高原地区 14.8%、妙高地区 10.6%である。
  - ・令和 5 年 11 月 1 日現在の旧市町村の人口割合は、新井地区 75.7%、妙高高原地区 13.6%、妙高地区 10.7%である。
  - ・上記から、旧市町村別の回答者割合と、人口割合はほぼ一緒である。
- ※妙高市 LINE 公式アカウントに登録している人を対象にアンケートへの回答依頼を行ったほか、文化団体や市内の学校の先生を対象にアンケート用紙を配布するなど、アンケート依頼を積極展開したため、344 件の回答を得られたものと思われる。

## 問2 年齢について

あなたの年代を教えてください。該当する年代をチェックしてください。

① 10代	1(0.3%)
② 20代	18(5.2%)
③ 30代	36(10.5%)
④ 40代	50(14.5%)
⑤ 50代	91(26.5%)
⑥ 60代	76(22.1%)
⑦ 70代	65(18.9%)
⑧ 80代	6(1.7%)
⑨ 90代以上	1(0.3%)

[n=344]



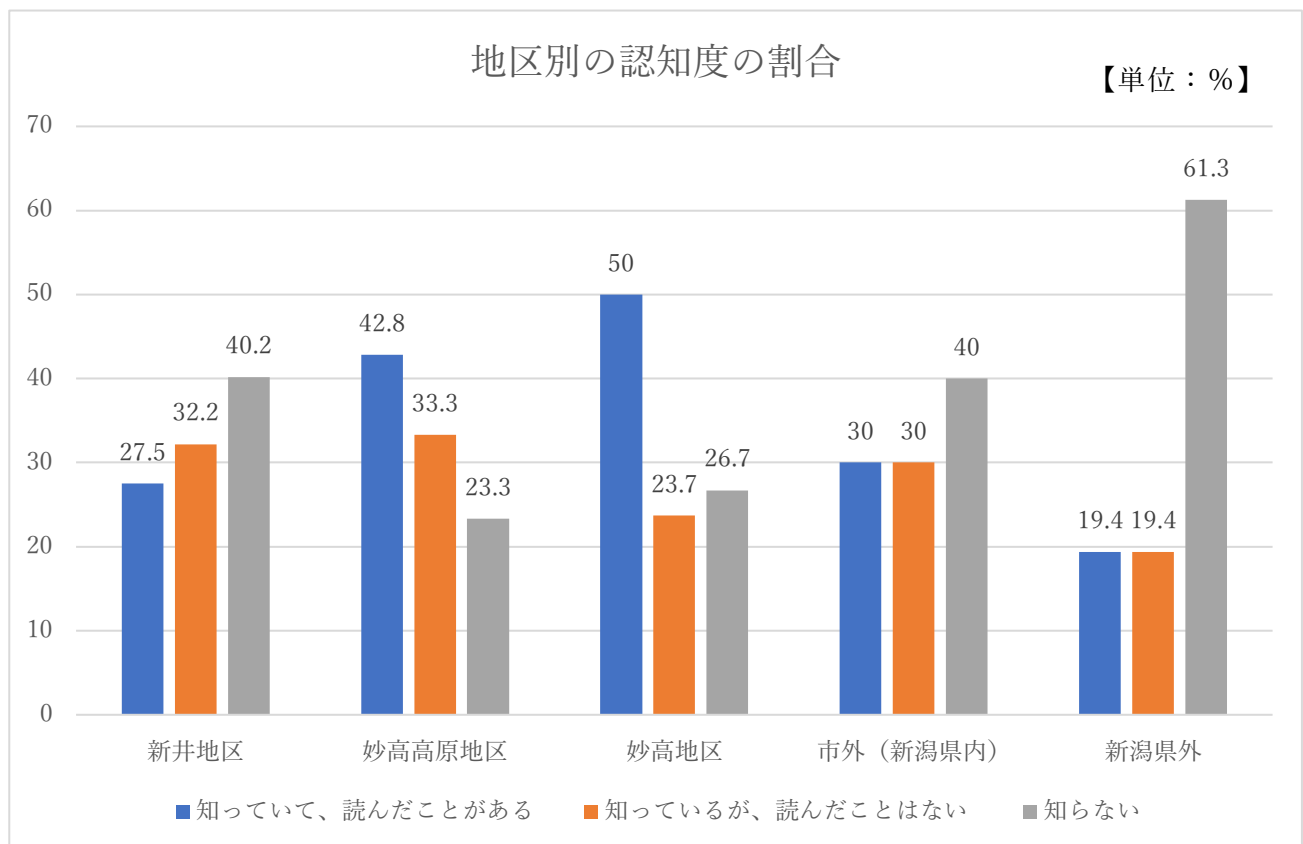
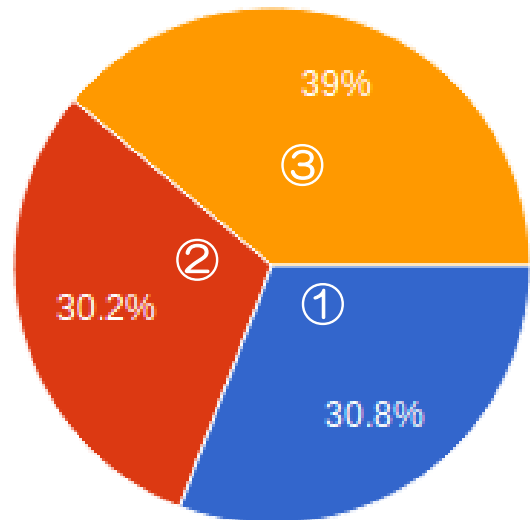
- ・回答割合は、50代26.5%、60代22.1%、70代18.9%、40代14.5%、30代10.5%の順である。これらの年代層が10%を超えている。
  - ・ほぼ万遍なく様々な年代層からの意見を徴集することができた。
  - ・いっぽうで10代の回答が1人しかいなかった。市史編さん準備委員からは、「これからは担う10代の考えを聞くことが必要」との意見があったが、結果して10代からの回答は1人だけだった。
- ※回答率の高い年代は、『市史』そのものへの関心度が高いことや、所属する文化団体や先生方の年齢層に比例しているものと思われる。

### 問3 自治体史（『新井市史』『妙高高原町史』『妙高村史』）の認知度について

合併前旧3市町村の自治体史を知っていますか。該当するものをチェックしてください。

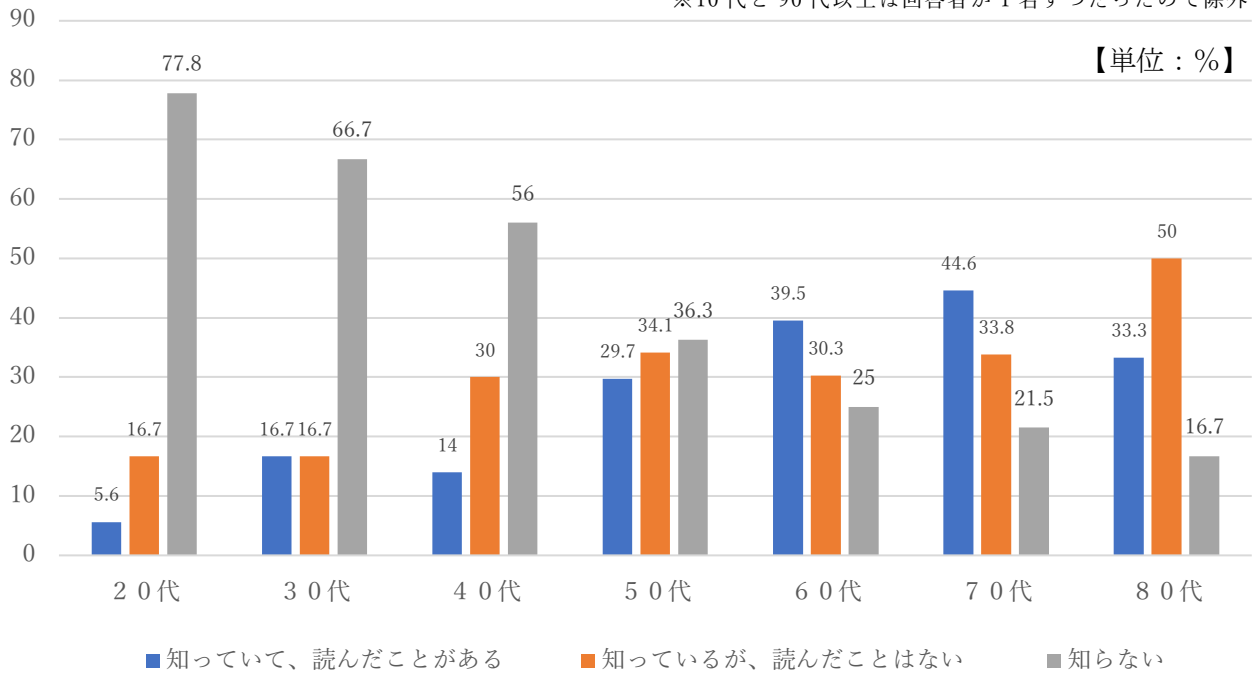
- ① 知っていて、読んだことがある 106 (30.8%)
- ② 知っているが、読んだことはない 104 (30.2%)
- ③ 知らない 134 (39%)

[n=344]



## 年代別の認知度の割合

※10代と90代以上は回答者が1名ずつだったので除外



- ・全体の認知度では③「知らない」が4割弱である。①「知っている、読んだことがある」、②「知っているが、読んだことはない」のいずれも約3割である。
- ・地区別の認知度では、新井地区が①が27.5%、②が32.2%、③が40.2%と、「知らない」の割合が高い。妙高高原地区が①が42.8%、②が33.3%、③が23.3%と、「知っている、読んだことがある」の割合が大幅に高い。妙高地区では、①が50%、②が23.7%、③が26.7%と、「知っている、読んだことがある」が5割と大幅に高い。
- ・刊行から新井市史が約50年、妙高高原町史が約40年、妙高村史が約30年経過しており、経過年数に比例して認知度が低くなっている。
- ・年代別では、③が10代から50代にかけて高く、①は60代と70代が一番高い。②は80代が一番高い。

※旧3市町村史の中には、古いものでは半世紀、新しいものでも30年が経過していることもあり、40代以下の年代層の認知度が、他の年代に比較して大幅に低くなっているものと思われる。

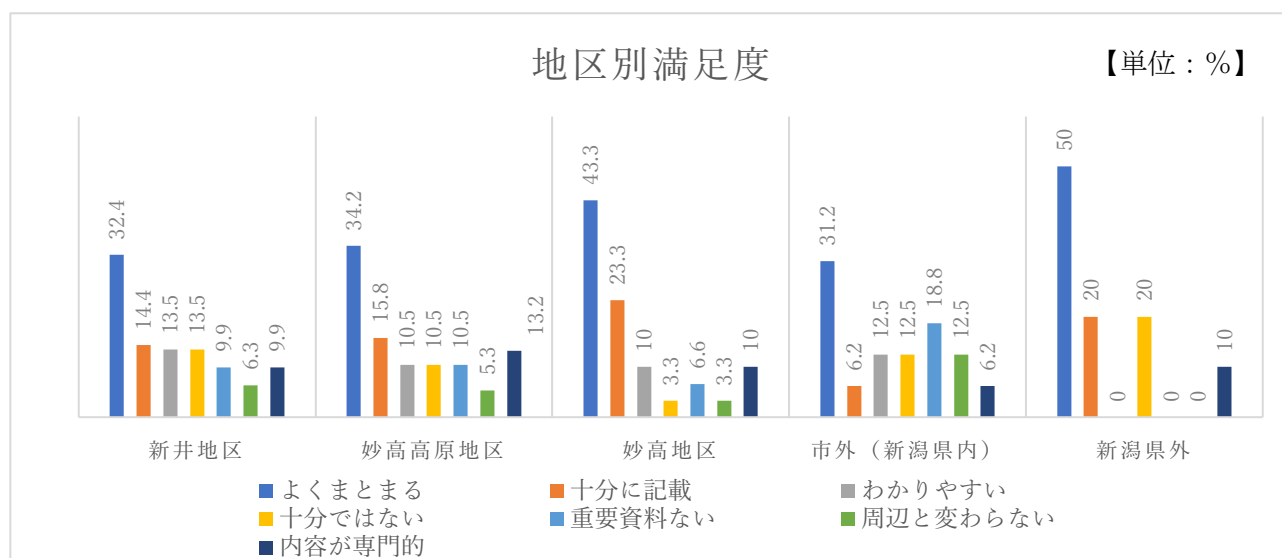
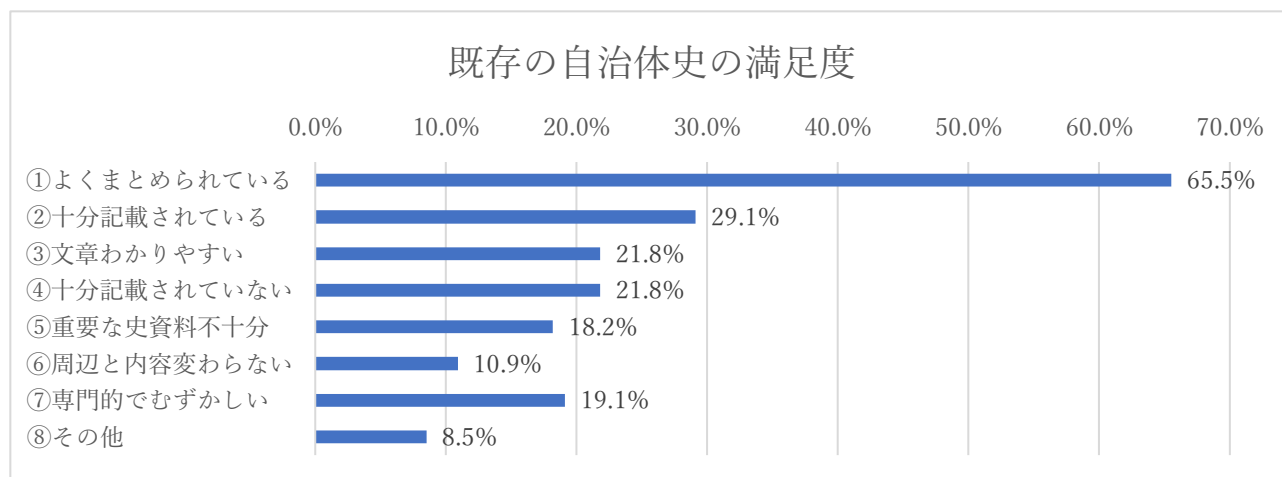
## 問4 既存の自治体史の満足度について

問3で「知っている、読んだことがある」と回答したかたにお尋ねします。旧3市町村の自治体史を読んだ感想として、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

※本来問3で①に回答した106人が対象だが、110人が回答したことから、母数は110となっている

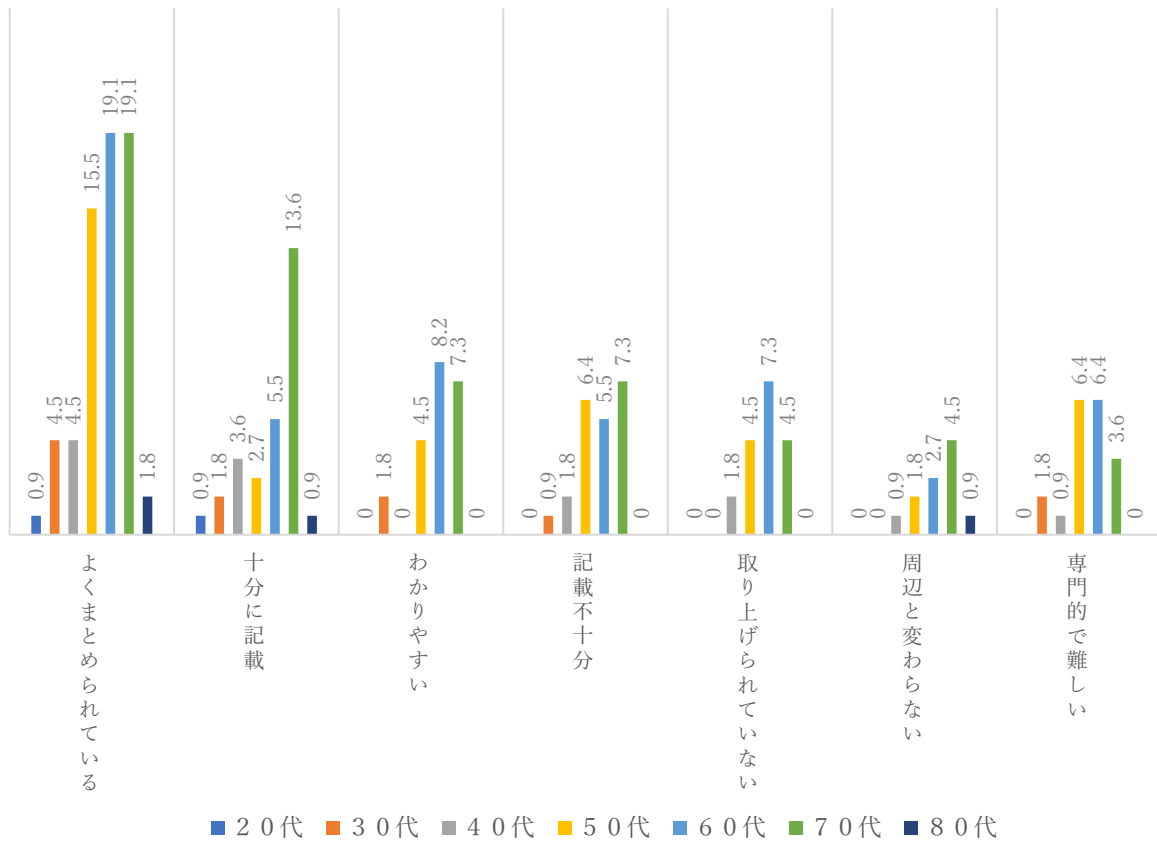
- ① 地区の歴史がよくまとめられている 72(65.5%)
- ② 知りたいことが十分に記載されている 32(29.1%)
- ③ 平易な文章でわかりやすい 24(21.8%)
- ④ 知りたいこと、調べたいことが十分に記載されていない 24(21.8%)
- ⑤ 重要な史資料が十分に取り上げられていない 20(18.2%)
- ⑥ 周辺の自治体史と書いていることが変わらない 12(10.9%)
- ⑦ 内容が専門的で難しい 21(19.1%)
- ⑧ その他 9(8.5%)

[n=110]



## 年代別満足度

【単位：％】



- ・全体では「地区の歴史がよくまとめられている」が65.5%と圧倒的に高く、次いで「知りたいことが十分に記載されている」が29.1%、「平易な文章でわかりやすい」が21.8%の順となっており、肯定的な回答が多い。
- ・「十分に記載されていない」、「十分に取り上げられていない」や「難しい」などの否定的な回答は肯定的な回答よりも少ない。
- ・地区別の満足度を見ると、県外が50%、妙高地区の満足度が43.3%と高い。いっぽう、新井地区、妙高高原地区、市外は30%代と、前記と比較すると低い数値となっている。
- ・年代別では、60・70代の満足度が高い。特に「知りたいことが十分に記載されている」と回答した70代の割合が高い。

※満足度は、妙高地区、妙高高原地区、新井地区の順となっていて、刊行時期が新しいほど高いことがわかる。年代別では、70代、60代、50代の順で満足度が高い傾向にある。

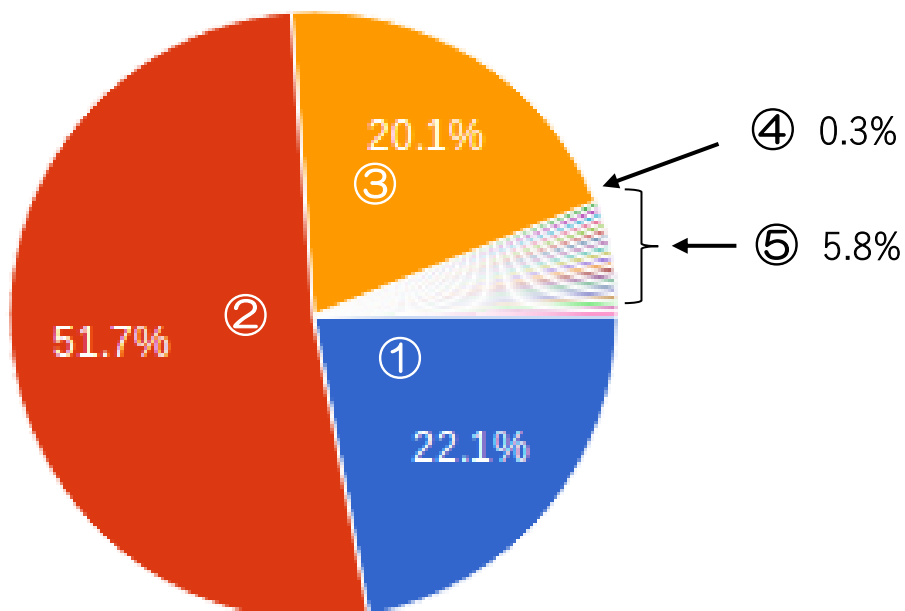


## 問5 『妙高市史』の仕上がりについて

これから編さんする『妙高市史』の仕上がりについて、皆さんが期待するものをチェックしてください。

- |                                |             |
|--------------------------------|-------------|
| ① 古文書や考古資料等の史資料を多く紹介した専門性が高いもの | 76 (22.1%)  |
| ② 史資料よりも写真や図表等を多く掲載したビジュアル的なもの | 178 (51.7%) |
| ③ 人物や情景のイラストなどを多く掲載した物語風のもの    | 69 (20.1%)  |
| ④ ビジュアル的なものと物語風なものを組み合わせたもの    | 1 (0.3%)    |
| ⑤ その他                          | 20 (5.8%)   |

[n=344]



- ・「史資料よりも写真や図表等を多く掲載したビジュアル的なもの」への期待が半数以上を占めている。
- ・「専門性が高いもの」や「物語風のもの」への期待は20%程度と、前記と比較すると低い割合である。
- ・その他の自由意見の中には、「子どもにとっても読みやすいもの」、「子ども用のものと専門的なものを別々に」、「別途、普及版も」など、いわゆる「普及版」への要望も一定数見られる。

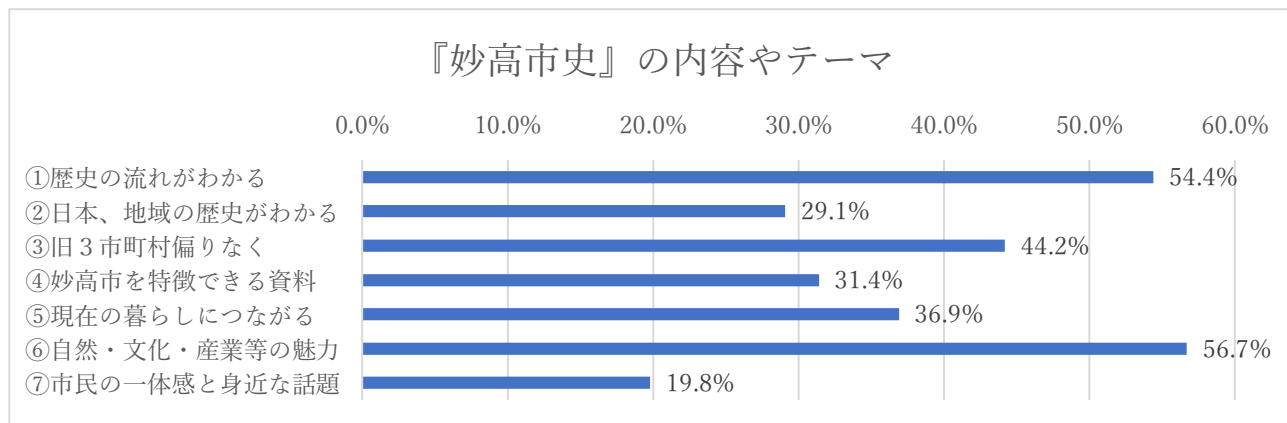
※専門性を維持しつつ、視覚に訴えた見やすいものを希望していることがわかる。

## 問6 『妙高市史』の内容やテーマについて（1）

『妙高市史』の内容やテーマの設定にあたり、特に重要と考えるものをチェックしてください（3つまで）。

- ① 時代概説が充実しており、歴史の流れや変化がよくわかること 187 (54.4%)
- ② 妙高市の歴史と周辺地域や日本列島の歴史が十分に対比できること 100 (29.1%)
- ③ 旧3市町村の歴史が偏りなく扱われていること 152 (44.2%)
- ④ 全国から注目される妙高市を特徴づける出来事や資料が大きく取り上げられていること 108 (31.4%)
- ⑤ 産業や生活文化等の現在の暮らしにつながる歴史や背景がまとめられていること 127 (36.9%)
- ⑥ 妙高市の地域特性や、妙高市が誇る自然・文化・産業等の魅力が顕在化していること 195 (56.7%)
- ⑦ 市民の一体感や愛郷心の醸成につながる身近な話題が盛り込まれていること 68 (19.8%)

[n=344]



・「妙高市の地域特性や、妙高市が誇る自然・文化・産業等の魅力が顕在化していること」と「時代概説が充実しており、歴史の流れや変化がよくわかること」が50%を超え、ついで「旧3市町村の歴史が偏りなく扱われていること」が40%を超えている。

・そのほかの項目についても、「市民の一体感や愛郷心の醸成」以外は、30%前後と高い割合となっている。

※妙高市の地域特性や歴史の流れがわかるとともに、旧3市町村で偏りが無いよう希望していることがわかる。

## 問7 『妙高市史』の内容やテーマについて(2)

『妙高市史』で大きく取り上げてほしい出来事、人物、テーマ等がありましたら、自由に記述してください。

### 【自然関係・災害関係】

- ・自然保護活動や動植物の研究
- ・自然環境をもとにした、妙高市ならではの取り組み
- ・高田平野はどの様にしてできたか、信濃川・関川・関田山脈との関わり
- ・地形や土地の成り立ちと、歴史的背景が結びつくようなもの
- ・「沼の集落」の歴史、「千草石」発見から市販等の歴史、「古笹ヶ峰湖」の歴史
- ・最古の旧地図から現在の地図までの市町村の変化
- ・活断層
- ・妙高山の噴火経歴等、妙高市の名前の由来である妙高山と、そのときどきの人々との関り
- ・災害（火山噴火、水害や雪害など）記録、復興事記

### 【原始～近世の歴史】

- ・斐太歴史の里、斐太遺跡及びその保存の歴史
- ・栗原遺跡や国分寺
- ・古くから上越地方が越後の中心地域であったこと
- ・斐太神社や市内各村の神社
- ・戦国時代の人物、二俣城や田切城、鮫ヶ尾城、鳥坂城をはじめとする妙高市の城郭
- ・北国街道と宿場町について
- ・最近発見された歴史遺産や文化財など
- ・上杉謙信時代の妙高市エリアの統治と庶民の生活
- ・関山家と宝蔵院、宝蔵院院主、信仰圏、北信との関係、異安心一件
- ・妙高山信仰と関山神社の歴史、火祭りの歴史について
- ・戊辰戦争、明治維新、日清から大東亜にかかる戦争期
- ・有形、無形の重要文化財のマップ、歴史的文化財の詳細
- ・史跡や筆塚、一里塚
- ・寺社の歴史、中世の時代背景

### 【水資源や用水、道路や鉄道などインフラ関係】

- ・温泉やその開発の歴史
- ・陸運（街道）と水運（河川）の歴史
- ・道路・鉄道・用水などのインフラ整備、インフラの近代化や歩みについて
- ・旧関山駅のスイッチバック
- ・拾ヶ村用水と中江用水。四ヶ村用水。電源開発と用水、地域住民の関わり

- ・水力発電開発の歴史
- ・川上隧道（上江用水）の開削
- ・世界かんがい施設遺産「上江用水」。関川またぐ鉄線つりばし。関川水系の水力発電所。水上里養水資料館
- ・関川水系の農業用水の利水
- ・河川工事
- ・市街地開発の歴史と再開発の歴史

#### 【雪関係】

- ・雪と降雪量、観光、スキー、食べ物、生活の工夫等
- ・ジャンプ台
- ・雪国の暮らしや豪雪時の状況など
- ・雪国特有の住居の変遷について。雪との関わりについて。
- ・スキー板生産業、大毛無山の開発とそれに伴う雪との戦い

#### 【民俗関係】

- ・妙高市の人々の暮らしや方言、庶民の生活や文化、昔と今の生活の違い
- ・各集落の起源や歴史、変化、興亡、魅力など
- ・時代ごとによく食べられていた食事や給食のメニュー（献立表など）の再現
- ・各地で伝承されてきた祭や伝統的な行事
- ・昔の話し言葉（方言）や踊りなどの無形文化財について映像化や音源化
- ・旧村単位の村歌
- ・平丸地区のすげ細工など、集落の特徴的な工芸

#### 【産業・観光関係】

- ・戦後からの発展（産業、都市計画）の様子
- ・企業の衰勢
- ・地域の産業
- ・ブドウの歴史
- ・大洞原の変遷
- ・観光スポット、ウィンタースポーツ、妙高市のイベント等、全国にアピールできる場所など

#### 【人物】

- ・歴代市長とその実績
- ・妙高市出身の有名人（オリンピック選手、芸能人など）や成功者（博学者・文化人など）
- ・妙高市ゆかりの文化人（岡倉天心、小林一茶など）

#### 【市町村合併、学校統廃合】

- ・合併に至る理由、プロセス、合併による行政区の変化、市の名称
- ・小中学校や保育園等の歴史と統廃合

#### 【その他】

- ・人口の変遷
- ・妙高市と国立公園の歩み
- ・3市町村の偏りなく、満遍ない編集
- ・ビフォーコロナ
- ・行政の失策
- ・フィクションではなく、妙高市にまつわる学術的価値の高い市史
- ・公共施設の建設の歴史
- ・文人や皇族に選ばれた妙高

・124人の方からたくさんのご意見をいただいた（現存する個人を特定できるものについては割愛）。

・いただいたご意見を9項目のテーマに分類し、整理した。

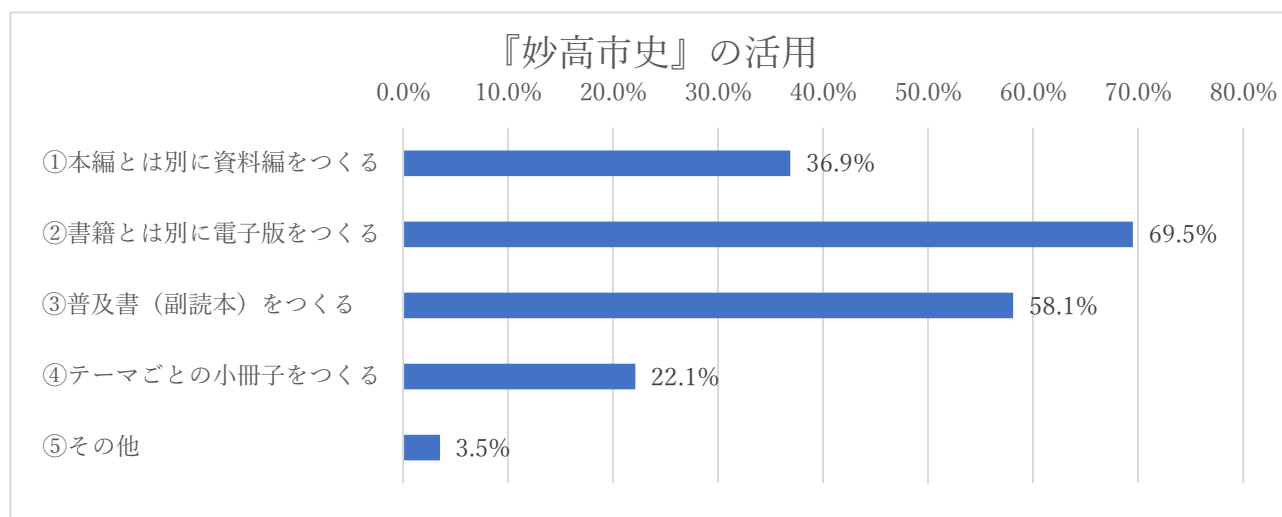
※貴重なご意見を意識しながら今後資料収集、聞き取りなどの基礎調査を行うとともに、市史編さんに活かすよう配慮する必要がある。

## 問8 『妙高市史』の活用について

『妙高市史』が様々な立場の人々から広く活用されるために、どのような工夫が必要だとお考えですか。必要と思うものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① これからの歴史研究の発展に活かせるように、本編とは別に資料編（原典となる史資料を詳しく紹介したもの）をつくるのがよい 127 (36.9%)
- ② 書籍とは別に、インターネット環境で気軽に検索・閲覧できるように電子版も合わせてつくるのがよい 239 (69.5%)
- ③ 小中学生が調べ学習の参考図書として授業などで活用できるように、一般向けの市史とは別に、子どもたちを対象とした普及書（副読本）をつくるのがよい 200 (58.1%)
- ④ 時代やテーマごとに数十ページの薄い小冊子を読み切りの形で発刊していくのがよい 76 (22.1%)
- ⑤ その他 12 (3.5%)

[n=344]



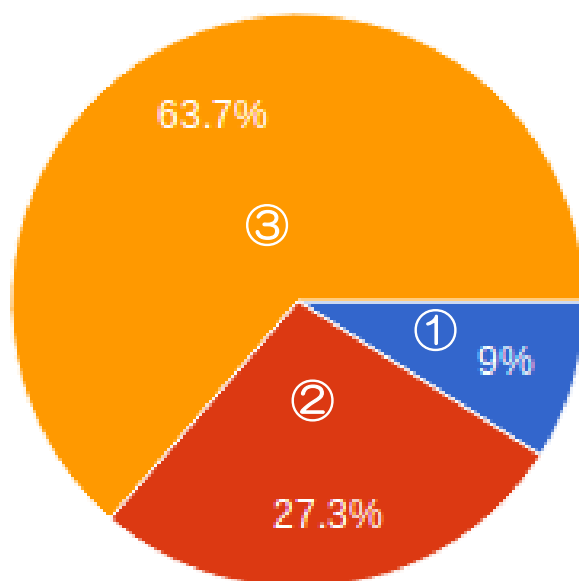
- ・「書籍とは別に、インターネット環境で気軽に検索・閲覧できるように電子版も合わせてつくるのがよい」が70%弱と非常に高い割合である。
- ・次いで「小中学生が調べ学習の参考図書として授業などで活用できるように、一般向けの市史とは別に、子どもたちを対象とした普及書（副読本）をつくるのがよい」が60%弱となっている。
- ※収集した資料の扱いについては「資料編」として刊行する計画はなかったが、4割弱の希望もあることから、何かしらの形で提供できる取り組みが必要である。

## 問9 集めた史資料の活用について

市史の記述の原典となった史資料について、今後どのような方法で活用されていくことが望ましいと考えますか。望ましいと思うもの一つをチェックしてください。

- ① 研究者や学生などが検索・閲覧できる窓口機能が整っていれば十分である 31 (9%)
- ② 公文書館などの収蔵施設があり、市民が気軽に閲覧できるようになっているのがよい 94 (27.3%)
- ③ 利用度の高い資料のデータ化が行われ、インターネット環境で誰でも閲覧できるようになっているのがよい 219 (63.7%)

[n=344]



- ・「利用度の高い資料のデータ化が行われ、インターネット環境で誰でも閲覧できるようになっているのがよい」が63.7%と突出して高い。
- ・「公文書館などの収蔵施設があり、市民が気軽に閲覧できるようになっているのがよい」が30%弱ではあるが、収蔵や閲覧など将来の活用への要望も一定数ある。
- ・「窓口機能だけあれば十分」は低くなっている。

※必ずしも印刷物に頼らずデータ化されていれば利用価値が高まり、気軽に閲覧が可能になる。市史編さんの最終年度が令和14年度であり、現在よりもさらに電子化が進んでいることが容易に想定できることから、それを見越した取り組みが必要である。

## 問 10 史資料の所在情報について

市史の編さんに利用可能な史資料（古文書、古写真、古い観光パンフレット類など）をお持ちのかたで、情報提供をいただけるかたは、その内容やご連絡先を教えてください

（割愛）

## 問 11 自由意見

『妙高市史』について、希望や要望があるかたは、どのようなことでも結構ですので、自由に記載してください。

（82 名回答、類似の回答はまとめた。また、直接市史とかかわりない内容は割愛した）

### 【資料収集】

- ・市史作成経過について市民に伝え、新たな史資料の発掘、発見に努めてもらいたい。
- ・古文書・資料の寄託保管を進める。どんどん紛失・消滅・破損が生じている。
- ・失われた古文書・資料、残っている古文書・資料の確認を急ぐ必要がある。
- ・古文書の解読を進め、合せて次の 100 年に残すための修復が必要である。
- ・山間部にも古い歴史があるので、漏れ落ちのないようにしっかり調査して載せてほしい。
- ・過去の町史、村史、市史の合体でなく、新たな調査、研究成果を盛り込んでレベルアップを。
- ・古文書のみではなく、様々な資料に目配りをし、少しでも将来に役立つ記録を残すべき。
- ・専門家を交えての市民との語らいの場を設け、聞き取りや資料集めをしてほしい。

### 【体裁】

- ・カラーで写真が多く、堅苦しい文体ではなく、子どもからお年寄りまで興味を持って手にとって読めるようなもの。
- ・使用する文字のポイントは大きめに。
- ・分厚いものは気軽に手に取って読めないのも、シリーズもので集めたい冊子タイプ。
- ・雑誌感覚で買えるもの。銀行や病院などに置いて、誰でも気軽に手に取って読めるもの。

### 【内容】

- ・郷土を知ることができ、次世代へつなぐための貴重な文献であるので、大事に制作してほしい。
- ・知らないことが沢山あるので、身近なことを知りたい。
- ・移住者でも興味が湧く内容にしてほしい。ただ単に妙高市の昔を羅列したり懐かしんだりするだけでなく、他の地域との関わりや違いも絡めて記載してほしい。
- ・絵図面・写真・資料をできる限り多く載せることと、資料集を充実する。



- ・資料はパソコンで検索できるようにし、その内容をパソコンで見られるようにする。
- ・読みやすさ、わかりやすさばかりを考慮して、物語性やフィクションを盛り込むなどして、学術的価値を失うことだけはやめてほしい。
- ・行政機関が作成する公の刊行物として、妙高市を研究しようとする人文・社会科学研究者のための研究資料として、利用に耐える価値のあるものを目指してほしい。
- ・深く理解出来るよう、出典元や関連事項が解る資料編や関連項目の手引きが欲しい。
- ・研究の進んでいる分野だけが掲載され、市町村にとって必要な内容の掲載が不十分な市町村史が多いように思う。妙高市の特徴や課題の検討を市史に反映させてほしい。
- ・良かったことだけでなく悪かったことも記載するなど、多面的な内容を希望する。
- ・堅苦しい研究書から身近な図書となれば画期的なこと。後世につなぐ資料的側面も重要なので、両方を満足させてほしい。
- ・妙高市を離れた人たちが故郷を懐かしく思える内容。
- ・子どもたちの調べ学習に役立ち、そして、大人になって妙高市に残ろう、地元に貢献したいと思えるようなきっかけになる市史に。
- ・昭和 29 年の市制前の村落史を年表方式でもいいので記載してほしい。

#### 【施設・職員】

- ・計画中的の新図書館を有効に活用してほしい。
- ・専門職員の適切な配置と、「歴史博物館」の創設を望む。
- ・新井市史編さんの時に集められた古文書や資料のうち、返却されたものの中に散逸したものがあると聞く。所有権者の了解を得て、公文書館などの施設に収納されるが望ましい。

#### 【活用策】

- ・子どもたちにもストーリー性のある解りやすいものとし、学校の授業でも取り入れてほしい。
- ・後世に記録として残し、市民に郷土の歴史や文化等を知ってもらい活用してもらおう。
- ・長期にわたる編さん作業になると思うので、仮称「市史編纂だより」や講演会などの企画を計画的に実施し、市民の関心を高めてほしい。
- ・編さんの過程を広報で紹介してほしい。
- ・市史の編さんを絶好の機会と捉え、様々な場所で妙高市を PR してほしい。

#### 【その他】

- ・予約制とし、希望者が確実に購入できるようにしてほしい。
- ・生活圏が一緒の中郷や板倉を他市だからと言って排除しないでほしい。